

「インド政府が目指すデジタルヘルスケア・エコシステム」

田中 啓介

<インド政府のデジタル公共基盤>

インドでは、政府主導で「インディア・スタック（India Stack）」というオープン API（※1）を公開することで、インドの個人識別番号制度 Aadhaar（アダール）をベースとしたデジタルサービスの利活用を促進しています。このインディア・スタックの医療分野を司る「ヘルス・スタック（Health Stack）」が、コロナ禍におけるワクチン接種や遠隔医療の促進において、大きな役割を担いました。今回は、これらインド政府の推進するヘルスケアを取り巻く動向についてご紹介します。

（※1）API：Application Programming Interface
ソフトウェアやアプリケーション機能を共有する仕組みのこと。

<「ヘルス・スタック」とは>

2021 年 9 月 27 日、インド政府は、オープンで相互利用可能なデジタル・ヘルスケア・エコシステム構築のため、Ayushman Bharat Digital Mission（以下、ABDM と記す）を発足させました。ABDM は、全国の医療関係者が相互利用可能なデジタル・ヘルスケア基盤の整備を促進し、患者の利便性向上を図ります。

「ヘルス・スタック」の要となる Health ID は、14 桁の固有番号で構成され、Aadhaar や運転免許証と紐づけて、Web やモバイルアプリで簡単に作成することができます。例えば、インドの政府サービスポータルサイト Co-WIN は、インドの様々な政府機関によって提供されているサービスヘシングルウィンドウ（1 回の入力・送信により、複数の類似手続を同時に行えるようにするもの）でアクセスすることを可能にしており、Health ID と紐付けて COVID-19 のワクチン接種予約や履歴を管理することができます。2022 年 8 月現在で 20 億回超の接種実績が登録されています。

<ヘルス・スタックを担うインドスタートアップ>

ヘルス・スタックによってスタートアップの参入障壁が低くなり、リープフロッグ（※2）現象が起きるのもインドの特徴と言えます。

（※2）リープフロッグ：技術革新が一気に進展するさま。

特に以下3つのスタートアップは注目に値します。

1. DRiefcase

インドで初めて ABDM 展開が承認された個人健康記録アプリです。ユーザーとその家族が医療記録を一元管理し、インターネットでアクセス可能です。

2. Docprime health locker

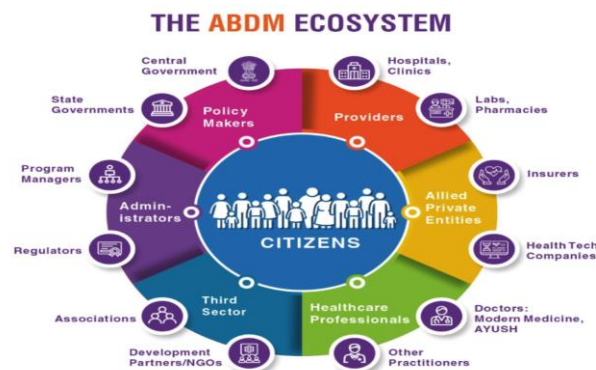
すべての健康記録を安全に電子的に管理し、ユーザーの同意のもと、医師と共有することが可能になります。Co-WIN の予防接種証明書を取得・保存することもできます。

3. Eka Care

患者の健康記録を管理するアプリを開発し、現在 50 万人近くの慢性疾患の患者が自分の健康記録をデジタルで保存できるようにしました。

インド政府は現在、個人情報保護法案を国会から取り下げて、データプライバシー、インターネットエコシステム、サイバーセキュリティ、通信規制、非個人データの利活用も含めた包括的な法案を提出する方向です。このようにセンシティブな情報の利活用を促進するためにエコシステムを整備し、利用規制を走りながら検討していく取り組みは、規制強化やベンダーロックイン（他社の参入が困難な状態）が DX を阻害する要因であることに気付かされます。

今後も、インドが様々な分野でどのような飛躍を遂げるのか、目が離せません。



<https://www.india.gov.in/spotlight/ayushman-bharat-digital-mission-abdm>

【出典：Ayushman Bharat Digital Mission のHP より】

9月2日～11月2日の期間に配信のオンデマンドセミナー「事例から学ぶ、イマドキの海外展開。」で、インディアスタックについて、詳しくご紹介しています。